

施策評価調書(2年度実績)

					施策コード	I-4-(1)
政策体系	施策名	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	39
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～おおいたうつくし作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、農林水産部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	自然や生物多様性の保護・保全と適正利用の推進	快適な地域環境の保全と創造	温泉資源の保護と適正利用の推進	ユネスコエコパーク、日本ジオパーク、阿蘇くじゅう国立公園、世界農業遺産などの地域資源を活用した地域振興の推進

【Ⅱ. 目標指標】

	指 標	関連する取組No.	基準値		2年度			6年度	目標達成度(%)				
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125
i	NPOとの協働による生物多様性保全活動の実施件数(件)	①	H26	80	92	93	101.1%	100					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等			平均評価	
i	達成	希少野生動植物の保護や特定外来生物の駆除、里山の保全など、幅広い保全活動をNPOと協働して実施したことにより、目標値を達成した。			達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性への理解促進を図るため、「おおいたの重要な自然共生地域」を3地域新たに公表した。また、啓発看板を7か所に新設した。 ・県北西部で急増している特定外来生物のアライグマについて、3市2町で引き続き地域の防除体制の整備に努めた。捕獲やDNA分析等による調査を通じて、生息域の状況等を把握するシステムを構築できた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのため、大人数でのイベントは行わず、みどりの少年団を対象に、植樹、森の整備、伐倒見学などの体験内容を充実させた「学びの森林フェス」を開催し、森林づくりへの理解を深めた。 ・17市町で1,172の集落協定と25の個別協定が締結されたことにより、農用地を対象とした農業生産活動の維持や鳥獣害防護柵の設置等による保全活動が行われ、耕作放棄地の発生防止が図られた。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉法に基づく掘削や動力装置の許可（許可件数：掘削及び増掘許可54件（うち地熱発電8件）、動力装置許可20件）、また地熱発電関連の温泉掘削においては地熱関係運用指針による指導を行い、温泉資源の保護・適正利用を図った。 ・別府市温泉賦存量調査を実施するとともに、大分県環境審議会温泉部会への報告を行った。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパーク体験ワークショップイベントを開催し731人が来場、フォトコンテストでは301枚の応募があるなど、認知度向上が図られた。 ・ユネスコエコパークの認知度向上のため、オフィシャルアーティストによる県内外での情報発信を行うとともに、誘客拡大を図るため、見どころの道路案内標識を46か所整備し、「ドライブガイドブック」を作成した。 ・第5回「山の日」記念全国大会の開催及び大分の山や温泉など豊かな自然の魅力について、イベント等でチラシ配布や写真展を行い、効果的な情報発信やPRを行った。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名（2年度事業）	事務事業評価	
		成果指標の達成率（%）	掲載頁
①	生物多様性保全推進事業	128.0	62
②	みんなで支える森林づくり推進事業	16.0	62
	森林づくりボランティア活動促進事業	91.4	62
	荒廃竹林整備・利活用推進事業	100.0	63
	(公)港湾環境整備事業	—	64
	県営都市公園里山利活用推進事業	104.7	64
	県営都市公園施設整備事業	—	64
	中山間地域等直接支払事業	95.5	195
③	農業農村多面的機能支払事業	94.6	197
	温泉資源適正利用推進事業	100.0(R1)	65
④	祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業	165.3	65
	おおいたジオパーク推進事業	74.0	65
	「山の日」記念全国大会開催事業	460.0	66

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○おおいたうつくし作戦県会議 自然保護・観光部会(R2.5)</p> <p>・次期「生物多様性おおいた県戦略」の策定にあたっては、これまで取り組みの成果を踏まえて行ってほしい。</p>	
---	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおいたの重要な自然共生地域」の公表地域や啓発看板設置箇所を増やすことなどにより、一層、生物多様性の理解促進を図っていく。 ・県北西部で急増している特定外来生物アライグマの生息域は県内全域に広がりつつあるため、これまでの取り組みを県内全域に拡大していく。 ・森林づくり活動や里山林の保全利活用等の支援、次世代の森林づくり活動のリーダーとなる人材を育成することにより、県民総参加の森林づくりを推進する。 ・温泉資源の保護と適正利用を推進していくため、温泉賦存量調査の結果をもとに、新たな保護対策等を検討する。 ・R3年度の再認定を確実なものとするとともに、体験ワークショップイベント等による情報発信を行い、ジオパークのさらなる認知度向上や誘客拡大を図る。 ・ユネスコエコパークの認知度向上や誘客拡大を図るため、自然散策路の情報発信や自然に触れる機会の創出等につながる施設整備等への支援を行う。 ・第5回「山の日」記念全国大会の成功に向け、適切な感染症対策等を講じた上で、自然保護活動団体や観光事業者や自治体等と協働で取り組みを進める。